

わが家・わがまち・家庭の備えは大丈夫？

昨年は、度重なる台風の襲来によって、いたるところで長時間の停電が発生するなど、日常生活に多くの支障をきたしました。また、新潟県中越地震やスマトラ島沖地震では多くの方が犠牲になりました。毎年のように襲来する台風や今世紀前半に発生が予想されている南海地震、それに伴う津波や火災。災害による被害を最小限にするためには、各家庭での日頃の備えが重要です。

風水害対策

(建物内外の風水害対策)

屋根のチェック

瓦のひび・割れ・ずれまたは、はがれはありませんか？
アンテナ類はしっかりと固定されていますか？

外壁や屋外設置物のチェック

亀裂や欠落、腐食はありませんか？
屋外の設置物の固定はしっかりとできていますか？

ベランダなどの高所のチェック

鉢植えや物干し竿などが強風で飛ばされたり落ちないように、固定や控えなどで補強してありますか？

雨どい・雨戸のチェック

雨どいが落ち葉などで詰まっていますか？
損傷や破損はありませんか？

窓ガラスのチェック

ひび割れ・がたつき・緩みなどはありませんか？

ガラスの飛散防止には、ガムテープやフィルムなどを貼ると効果的です。

地盤の低い場所について

河川の近くや地盤が低いところなど、水害の経験がある地域などでは、自衛策として土のうや板などを使って浸水を防ぐことも必要となります。土のうが無い場合は、ポリ容器に水を入れて土のうの代用として活用できます。

浸水に備えて、家具などは少し高い所に移動しておくとも良いでしょう。

避難に備えて

最近の雨の降り方は、局地的にしかも短時間に集中して降る場合が多く、避難を余儀なくされることも考えられます。日ごろから非常持ち出し袋の準備をはじめ、最寄りの避難場所を確認しておきましょう。





避難場所（次ページ下段）は、風水害時と地震災害時では条件が異なりますので、避難所として使用が可能なのかも併せて確認しておきましょう。また、水害情報はある程度の予測できることが多いので、テレビやラジオからの気象情報をチェックしましょう。

山間部での土砂災害について
山間部では土砂災害の発生の危険があります。周辺で異常を感じたり、相当

非常持ち出し袋はありますか？

非常持ち出し袋は、市販のリュックサックタイプのような背負えるものがよいでしょう。袋に入れるものとしては次のようなものがあります。

*この他にもさまざまなものがありますが、必要なものをライフスタイルに合わせてよく考えて準備しましょう。



携帯ラジオ、懐中電灯、ろうそくなど
非常食（缶詰など日持ちするもの）・水（1人1日3リットル程度が目安）など
生活用品（ライター・マッチ・ビニール袋など）
衣料品、ヘルメットなど
救急セット（常備薬・絆創膏など）
通帳（現金など）

量の降雨を伴った場合は、早めに避難をしましょう。

避難する際は、隣近所どうし声を掛け合い、子どもや高齢者等の災害時要介護者の避難を優先しましょう。

地震がおきたらどうするの？

地震発生からの行動 グラッときたら...（心得10カ条）

1 揺れを感じたら、丈夫なテーブルや机の下に身をかくし、身の安全を確保しましょう。風呂場、トイレ、押入れなどは、比較的安全です。

2 火を消せるときはすばやく、余裕がない場合はまず身の安全を確保し、状況を見て火の始末を。ガス器具などは火を止め、電気器具はプラグを抜きます。

3 万一出火しても天井に燃え移る前なら、初期消火が可能です。「火事だ!」と大声を出して隣近所に応援を求めるとともに消火に努めましょう。

4 揺れにより出入口が開かない場合があるので、ドアなどを開けて逃げ口を確保します。また、急いで飛び出すと瓦などの落下物があり危険です。冷静に行動を。

5 狭い路地では、看板などの落下物やたれ下がった電線、また、ブロック塀や門柱、自動販売機などは倒れやすく危険です。近づかないようにしましょう。

6 もろい地盤のがけや山は、地震で崩れることが考えられます。周りの状況に注意し、日ごろと違う異常を感じたら、すばやく避難しましょう。

7 避難時には、荷物はできる限り少なくしてリュックサックで背負います。また、避難所へは、広くて安全な道を選んでみんなと一緒に歩いて行きましょう。

8 避難時は、できるだけ急いで避難場所などへ移動しましょう。途中で忘れ物などをして、家の中に戻るのは危険です。

9 災害時には、うわさやデマに振り回されることがあります。ラジオやテレビの報道に十分注意し、正しい情報をキャッチしましょう。

10 隣近所お互いに声をかけあい、安否の確認をしましょう。お年寄りや体の不自由な人には手助けを、ケガ人がいる時には、協力して応急手当をしましょう。